



救急車の 適時・適切な利用を！



～夏季に向けて、救急要請が急増中！！～

例年、夏季は気温の上昇とともに熱中症による救急需要が増加します。救急出場が増えると、通報を受けてから救急車の到着までに時間を要し、救える命が救えなくなってしまう可能性があります。



～こんな症状があったら、迷わず救急車を！～



救急車を
上手に使いましょう
(総務省消防庁)



高齢者

- 頭**
突然の頭痛や高熱
- 顔**
顔半分が動きにくい・しびれる
- 胸や背中**
激痛、呼吸困難
- おなか**
突然の激しい腹痛
血を吐く
- 手・足**
急なしびれ



子ども

- 頭**
痛がつけきれんがある
血が止まらない
- 顔**
顔色が明らかに悪い
- 胸**
呼吸が弱い
ゼーゼーしていて苦しそう
- おなか**
激しい下痢や嘔吐があり、
意識がはっきりしない
- 手・足**
硬直している

※症状は一例です。

～迷ったら、救急受診ガイドや、#7119を！～

救急車の適時・適切な利用のお願い

病院？救急車？迷ったら…

#7119

☎ 電話で相談
東京消防庁救急相談センター

📱 ネットでガイド
東京版救急受診ガイド

こちらからもつながります

03-3212-2323

042-521-2323

東京消防庁 東京都医師会 東京都保健医療局



東京版救急受診ガイド

東京消防庁ホームページや公式アプリからご利用できます。病気やけがの緊急度、医療機関での受診の必要性などが確認できます。

東京消防庁救急相談センター

症状に基づき、緊急性の有無に関するアドバイスや受診可能な医療機関の案内などを行っています。「#7119」とダイヤルするだけで、24時間365日いつでもご利用できます。

夏の事故防止対策



熱中症対策



高温多湿な環境下に長くいると、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能が低下します。その結果、体内に熱がこもること、めまい、吐き気、頭痛などの様々な症状を引き起こします。



熱中症の対策とポイント!

〈水分補給は計画的かつ、こまめにする〉

- のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。特に高齢者は注意しましょう。
- 起床時、入浴後にも水分補給をしましょう。
- 大量の汗をかいた時は、塩分も補給しましょう。



〈高温・多湿・直射日光を避ける〉

- 屋内では・・
- 扇風機やエアコンを使用しましょう。
 - ブラインドやすだれで直射日光を遮りましょう。
- 屋外では・・
- 帽子や日傘を使いましょう。
 - 日影を選んで歩きましょう。



〜バーベキュー時の火災を防ぐポイント〜

- 使用済みの木炭を捨てる際は、水道水などで十分に浸してから捨てましょう。
- すぐに消火できるような水バケツや湿らせた布を用意しましょう。
- 着火剤の「継ぎ足し」は、絶対にやめましょう。



〜河川やプール等での水の事故を防ぐために〜

- 荒天時や天候不良が予測される場合はレジャーを中止しましょう。
- ライフジャケットを着用するなど、事故の未然防止に努めましょう。
- 子供から目を離さず、大人が必ず付き添って遊びましょう。



【問合せ先】

大森消防署 03-3766-0119 田園調布消防署 03-3727-0119
 蒲田消防署 03-3735-0119 矢口消防署 03-3758-0119